
Z会東大進学教室

直前早慶大英語

【1回目】



問題

【1】

解答

- (1) ①-A d ①-B c ①-C a (2) c (3) ③-A c ③-B c
(4) 「全訳」の下線部④参照。 (5) b (6) b (7) 「全訳」の下線部⑦参照。
(8) b (9) d (10) a

全訳

長年にわたり、私は悪の心理学と自ら命名しているものに関する基本的な問題に興味を抱いてきた。それは、善良な人が邪悪な行為に走るのはいったいなぜなのか、という問題だ。私はこの問題に小さな子供の頃から興味を抱いてきた。サウスブロンクスのスラム街で育った私には、いい子のように思えたけれども、何らかの理由で最後にはひどい面倒を起こしてしまった友人がたくさんいた。彼らは刑務所に入ったり、麻薬を服用したり、他の人にひどいことをしたりした。私は子供時代を通して、何が彼らを誤らせてしまったのか、その可能な要因を理解しようとするのに、もっぱら関心を向けてきた。

人は恵まれた環境に育つと、周りで目にする成功は自分の手柄によるものだと思いたくなり、その結果、内的要因派になる。物事を説明するために、性格や遺伝子、あるいは家族が祖先から受け継いだものを探し求める。なぜなら、自分の父はよいことをした、自分もよいことをした、子供もよいことをするだろうと言いたいからだ。奇妙なことに、貧しい環境で育つと、異常な行動を理解しようとするのに、外的な状況要因を重視する傾向がある。身の周りを見渡し、父親が働いていないとか、麻薬を売っている友達がいるとか、姉妹が売春をしているとかがわかると、そうさせているのは彼らの心の中にあるものが理由だとは言いたくないのだ。なぜなら、そうやってしまったら、それはある意味で血筋の問題になってしまうからだ。状況を強調する心理学者や社会学者は、比較的貧しい移民の家系から出ていることが多い。私も移民の家系の出だ。

年とともに、私はこの問題をますます精緻な仕方で尋ねるようになった。人に善と悪の一線を踏み越えさせることが可能な状況変数や状況過程には具体的にどのような種類のものがあるのか調査し始めたのである。私たちはみな、その一線を越えることはあり得ない、殺人や反逆罪や誘拐などの恐ろしいことを行う人は最初からその線のあちら側にいるのであって、私たちがそこに行くことは決してあり得ない、と思いたいのだ。私たちはよい人間の側にいると思いたいのである。私の仕事は、それは違う、その一線を越えることは可能だということから始まった。ある人々がその線のよい側にいる理由は彼らが実際に試される機会がなかったということだ。その一線を越えるよう誘惑されたり、そそのかされたりする異常な環境に身を置くことが実際にまったくなかったのである。過去30年間にわたる私の研究では、実験室や野外環境にさまざまな状況を作り出し、そこに善良で正常で普通の健康な人々（健康な大学生の場合が多かったが）を連れ出し、誘惑されたりそそのかされたりする状況に身を置かせたのだ。

例えば、ウィリアム・ゴールディングの『蠅の王』を考えてみよう。この小説の中では、善良な少年聖歌隊員だったジャック・メリデューを、豚を殺すだけでなく、さらにインテリ

のピギーまで殺すことができる子供にまで変身させてしまった重要な状況変数は、彼が外見を変えることだ。彼は裸になり、ベリーの実を塗って顔を隠し、他の子供たちにも同じことをさせる。次に、彼らは禁止されていたことをする。つまり、食糧として必要な豚を殺すのだ。④ひとたび殺すことを抑制していたたがが外れると、次は自由に殺すことができるようになる。このアイデアは小説家の奇抜な考えなのか、それとも心理学的に妥当な考えなのか。

これを調べるために私は実験を考案した。ニューヨーク大学の女子学生たちを連れ出し、名前がわからないようにした。彼女たちに頭巾をかぶせ、暗闇の中に身を置かせ、名前を奪って番号を与え、小さなグループに分けた。そして、案の定、30分もしないうちに、あの優しい女性たちが実験環境の中で他の女性たちに痛みをもたらす電気ショックを与えていたのである。私たちはまた没個性化についてのその実験をベルギーの軍隊に対し多様な形態で繰り返し行ったが、結果は同じだった。名前をわからなくし、攻撃の許可を与える状況を作れば、たいていの人は、まず間違いなく、心の中にある野獣性をむき出しにするのだ。私の関心は自分は絶対にしないでだろうと公言している事柄を善良な人々に行わせることがどれほど容易なことかを示すことにあるが、私のこの関心はその実験から始まったのである。

私は破壊行為についての研究も行った。私がニューヨーク大学の教員だった頃、町中の通りに壊されたおびただしい数の車があることに気がついた。私はブルックリンに住んでいて、ブロンクスのニューヨーク大学に通っていたが、通りに壊された車をよく見かけた。そんな時、警察に電話をしてこう言った。「あの、セジウィック街167番地にひどく壊れた車があるんですが。事故があったんでしょうか。」電話に出た警官がそれは心なき破壊者の仕業ですと答えた時、私は「心なき破壊者って誰ですか。インタビューしたいのですが」と言うと、警官は、それはね、下水溝から出てきて、何もかもぶち壊し、壁には落書きを塗りたくり、窓を壊し、そして姿を消す黒人やプエルトリコ人の幼い子供ですよ、と返答した。

そこで私は動物行動学者の言う「解発因」を作った。中古車を購入し、ナンバープレートを外し、ボンネットを上げ、そして起こったことを写真に撮った。わかったことは、黒人やプエルトリコ人の幼い子供ではなく、たまたま車で通り過ぎようとしていた中産階級の白人のアメリカ人だったということだ。私たちは車をブロンクスのニューヨーク大学の近くに置いた。10分もしないうちに、通りかかった最初の車の運転手はその車をジャッキで持ち上げ、タイヤを取った。さらに10分後、小家族がやってきた。父親はラジエーターを取り、母親はトランクを空っぽにし、子供は小物入れを担当した。私たちの計算では、48時間の内に、その車に23回の破壊的接触があった。子供が関わっていたのはそのうちのわずか1回だった。私たちは、スタンフォード大学があるパロアルトから1ブロック離れたところに車を出して、比較してみた。車は1週間外に出しておいたが、最後の日まで誰も車にさわらなかった。その最後の日は雨が降っていて、誰かがボンネットを下げたのだ。⑦絶対にエンジンに水が入ってはいけないとの配慮だった。

From “You Can’t Be a Sweet Cucumber in a Vinegar Barrel” by Philip Zimbardo

as featured in BEST OF EDGE: MIND by John Brockman

Copyright © 2011 by Philip Zimbardo

Used by permission of Brockman, Inc

【配点】 25 点

- (1) 各1点×3 = 3点 (2) 2点 (3) 各1点×2 = 2点 (4) 4点
(5) 2点 (6) 2点 (7) 4点 (8) 2点 (9) 2点 (10) 2点

【配点の目安】

- (4) 以下のように2つの区分を設定する。単語レベルのミス・脱落は1件につき1点減点とし、区分を超えて減点はしない。
① Once killing is disinhibited (2点)
Once … は「…するやいなや」としても可。
② then they are able to kill freely (2点)
(7) God forbid that the motor should get wet (4点)
God forbid that ~ should … の仮定法を訳文に反映できていないもの - 2点
the motor は「車」でも可。

【2】

解答

- (1) **b** (2) as infants are we allowed (3) **b** (4) **c** (5) ⑤ - C
(6) **d** (7) 「全訳」の下線部⑦参照。
(8) And the more we see people behaving in ways that are fair, cooperative, and kind, the more willing we are to form long-term friendships with them.

全訳

もし私たちがまったく利己的で、孤立した生き物ならば、コミュニケーションの必要性などほとんどなくなってしまっただろう。したいと思うことをしたい時にいつでも行うだけのことになるだろう。しかし、すべての生き物がそのような行動に従うなら、乏しい資源、例えば、食べ物や水、生命力あるパートナーなどをめぐる競争はすぐに暴力的な争いに発展してしまうだろう。生物学者たちは、自然界の至るところに、平和を維持することを目的とした何千という相互関係的戦略があることを突き止めてきた。それらの戦略は「協力的コミュニケーション」という言葉に要約することができる。

生存していくためには、どのくらい取り、どのくらい共有し、自分で生活できない他の人にどのくらい与えるか、この3つのバランスを取る必要がある。しかし、問題は残る。人間は利己的な傾向が強いのかそれとも協力的な傾向が強いのか、貪欲な傾向が強いのかそれとも寛容な傾向が強いのか。

この本を作り始めようとした当初は、私たちは人間は基本的に利己的であると考える傾向が強かった。実際、最初の頃のいくつか考えたタイトルの1つは『利己的な脳』であった。これはリチャード・ドーキンスの古典的作品である『利己的な遺伝子』のもじりである。人間が利己的であるという主張を裏づける証拠は山ほどあるが、何年も研究しているうちに私たちはその逆が真実であると確信するようになった。子供の時だけ私たちは完全に利己的になる自由を許されている。誕生時には私たちの脳はあまりにも未成熟であるから、世話をする人にすべての必要性を満たしてくれることを頼らざるを得ないのである。

しかし、私たちの利己心も長くは続かない。というのも、私たちが自分の世話ができるよ

うになるとすぐに、家族は互惠の精神を求めてくるからだ。兄弟姉妹や友達とおもちゃを共有することを学ばなければならないし、親のために雑用をしなければならないし、学校に入ったなら利己的な衝動を制限しなければならない。もしそうしなければ、罰せられてしまう。人との接触を奪われて、自分の部屋や教室の隅に追いやられてしまうのだ。そしてこの不快なメッセージこそが、社会生活という場においてはめったに利己心が許されることはないということを明確にしているのである。

だが心の中に葛藤は残る。私たちが大切にしているものを共有しなければならないとしたら、疑問が次々と湧いてくるのだ。例えば、どの程度、どれくらい長く共有する必要があるのか。ここからさらに公平性と寛容の度合いに関する他の疑問も生じてくるが、私たちを導く明瞭な解答は決して存在しないのだ。公平性と寛容に関して異なった価値観を持つさまざまな人々が関係してきて、それぞれの状況は違ったものになるから、私たちは自分の言葉に頼り、合意の交渉をしなければならぬ。もし互いに満足のいく解決を見出せなければ、相手の人は私たちと協力しなくなるだろう。同じことは仕事にも当てはまるだろう。私たちが引き換えに価値のあるものを与えることができない限り、誰も私たちに雇ってお金を支払ってくれることはないだろう。

利己心は「言語」を持たないのである。私たちが利己的な時は、財産や言葉の交換は起こらない。人に頼まずにただ欲しいものを取るだけだ。しかし、公平性には協力が必要となり、協力は対話、交渉、妥協、行動の変化の組み合わせにもっぱら依存する。利己心と公平性は、神経経済学と社会神経科学という2つの新しい研究分野が考察の対象としてきた基本的要素である。

⑦ さまざまな貨幣的交換に従事している動物と人間の脳をブレインスキャナーにかけて観察することによって、私たちは人間性についての根本的事実を発見した。社会的状況では、私たちは、助けてくれる人には親切と寛容で報いるが、助けてくれない人には罰を加える。その罰が私たち自身に何らかの損害をもたらす場合ですらそうするのである。そして、公平で協力的で親切な仕方でも人が行動するのを目にすればするほど、私たちはますますその人と長期的な友情を築きたいという気持ちを強めるのである。

【配点】 25点

- (1) 1点 (2) 2点 (3) 1点 (4) 1点
(5) 2点 (6) 2点 (7) 8点 (8) 8点

【配点の目安】

- (2) as infants we are allowed など語順の誤り - 2点
つづりのミス 各-1点
- (7) 以下のように2つの区分を設定する。単語レベルのミス・脱落は1件につき1点減点とし、区分を超えて減点はしない。
- ① By placing animals and people in brain-scan machines as they engage in a variety of monetary exchanges (6点)
as の誤訳 - 2点
- ② we have discovered a fundamental fact about human nature (2点)
- (8) 以下のように2つの区分を設定する。単語レベルのミス・脱落は1件につき1点減点

とし、区分を超えて減点はしない。

①そして、公平で協力的で親切的な仕方で人が行動するのを目にすればするほど（4点）

「…な仕方で」の誤り - 2点

②私たちはますますその人と長期的な友情を築きたいという気持ちを強めるのである。（4点）

「～すればするほどますます…」の誤り - 3点

the more willing we are to … は、the more we desire to …, the stronger our desire to … なども可。

【3】

解答

(1) d (2) ② - A less ② - B less ② - C less ② - D more (3) d

(4) b, c, f (5) c (6) c (7) a

(8) 我々は他者との関係を通じて自己を完成させたり幸福な人生を送ったりしているから。（39字）

全訳

19世紀末、社会科学の始祖の1人であるエミール・デュルケームは学問上の奇跡的なことをやり遂げた。彼はヨーロッパ中から資料を集めて、自殺率に影響を与える要因を調べたのである。彼の発見は一言でまとめることができる。それは「束縛」である。資料をどのように分析しても、社会的な束縛や絆や義務が少ない人は自殺をする可能性が高かったのだ。デュルケームは「宗教的社会的統合度」に目を向け、当時厳しい要求が最も少ない宗教生活を送っていたプロテスタントの信者の方が、カトリックの信者たちよりも、自殺率が高いことを発見した。緊密な社会的宗教的義務のネットワークをもっていたユダヤ人たちは自殺率が一番低かったのである。彼は「家族的社会的統合度」、つまり家庭も調べ、同じことを発見した。1人で生活している人は自殺をする可能性が一番高く、結婚をしている人は自殺率がより低く、結婚して子供がいる人はさらに低かった。こうして、デュルケームは、人は自分の人生に形と意味を与えるには義務や束縛が必要であるとして、こう結論づけたのである。「(人が) 帰属する集団が弱体化すればするほど、人は集団にますます依存しなくなり、その結果、ますます自分自身にだけ頼り、私的な利害に基づくもの以外の行動規範には目を向けなくなる」と。

百年にわたるさらなる研究でも、デュルケームの診断が正しいことが確認されてきた。もしある人がどのくらい幸福か、どのくらい長生きするかを予測したければ（その人の遺伝子や性格を尋ねることが許されないという条件で）、その人の社会的関係を知るべきなのだ。強い社会的関係をもっていることは、免疫システムを強化し、（禁煙よりも）より長生きさせ、外科手術からの回復を早め、鬱病や不安障害のリスクを減少させるのである。それは単に外交的な人が生まれながらにしてより幸福で健康であるということではない。内向的な人でもより社会的になることを強いられると、彼らは通常それを楽しみ、気分が高まることに気がつくのである。社会的な接触をあまりしたくないと思っている人であっても、社会的になることから恩恵を受けるのだ。さらに、それは「私たちはみな寄りかかる人を必要としている」

というだけのことでない。支援を「与える」ことについての最近の研究では、他人の世話をすることの方が、世話をされるよりも、恵みをもたらすのである。私たちは他人とやり取りをし、緊密な関係をもつ必要がある。私たちは与え「かつ」受け取る必要がある。私たちは何かに帰属する必要がある。だから、個人的自由を極端に押し進めるイデオロギーは危険なものになる可能性がある。なぜなら、このイデオロギーは人々に家を出、転職し、別の都市に行き、結婚を解消してまで個人的職業的栄達を追求することを勧め、その結果、おそらくは彼らの栄達を最もかなえてくれそうな関係を断ち切ってしまうからだ。

「自分のことだけを考え、すべてを自分に役立つかどうかの問題に変えてしまう人は幸福な人生を送ることはできない」と言ったセネカは正しかった。どんな男も、女も、子供も孤島ではない、と言ったジョン・ダンも正しかった。私たちは自分を完成させるには他人が必要である、と言ったアリストファネスも正しかった。私たちは超社会的な種であって、愛したり、友人として振る舞ったり、助けたり、分かち合ったり、あるいはまた自分の人生と他の人の人生を織り合わせたりするように、微妙に調整された感情であふれているのだ。愛情と人との関係は私たちに苦痛をもたらすこともある。ジョン＝ポール・サルトルの『出口なし』に出てくる登場人物が「地獄は他人（と付き合うこと）だ」と言ったように。だが、天国もそうなのだ。

【配点】 25点

- (1) 2点 (2) 4点 (各1点) (3) 2点 (4) 3点
 (5) 2点 (6) 2点 (7) 2点 (8) 8点

【配点の目安】

- (4) 正しい選択肢のみをすべて選んで3点。過不足のあるもの（2つ以下や4つ以上など）は0点。
- (8) ①我々は他者との関係を通じて（4点）
 other people に言及していないもの - 4点
 「集団に属することで」のように集団への帰属に言及していても、人との関わりにふれていないもの - 2点
- ②自己を完成させたり幸福な人生を送ったりしている（3点）
 heaven と言えるような、他人がいることで生じる利点・よい結果に言及していないもの - 3点
- ③「～から」など理由を説明するのにふさわしい表現（1点）
 ①～③の観点から減点する。

【4】

解答

- (1) d (2) c (3) a (4) d (5) b
 (6) b (7) c (8) b (9) c (10) b

解説

- (1) 「もっときれいで安全な資源に取り組み始めないと、我々は本当に生き残ることができないだろう。」

- unless … 「…しなければ」
- (2) 「彼は、2年前パリで出会った女の子と結婚することをついに決心した。」
 - marry ~ 「~と結婚する」
 - cf. get married to ~
 - make up *one's* mind to … 「…することを決心する」
- (3) 「ジョンは天才だけれども、靴ひもを結べない。」
 - 格式体では、譲歩節の主格補語が話題化されて文頭に移動することがあり、本問がこれに当たるが、主格補語に、a, an がつかない形式が生じる点に注意。
- (4) 「昨日無駄にした時間を埋め合わせるために、あなたは今日はとても一生懸命働かなくてはならないでしょう。」
 - 目的を表す副詞用法の不定詞が入る。
 - make up for ~ 「~を埋め合わせる」
 - 空所以下は節になっていないので **b, c** は不可。
 - because of ならば可。
- (5) 「とても天気の良い日だったので私たちはピクニックをすることにした。」
 - ① such + 冠詞 + 形容詞 + 名詞, ② so + 形容詞 + 冠詞 + 名詞 の語順に注意。
 - ① half, many, quite, rather, such, what などが名詞に付く時は、原則的に、冠詞はこれらの語の後に置かれる。
 - ② as, how, so, too が名詞に付く時は、原則的に、冠詞は形容詞の後に置かれる。
- (6) 「家のペンキ塗りをしてもらう予定なので、夕食に招待できないんだ。」
 - have O 過去分詞 「O を…させる」
 - cf. have O … (O に…させる)
 - have O …ing (O を…させておく)
 - 近い将来の予定を表す進行形。
- (7) 「彼らが小包をくくったひもはとても弱く、私が受け取った時に荷物がばらばらになっていた。」
 - with の目的語が欠けているので、目的格の関係代名詞が入る。
 - tie ~ up 「~を包む」
 - parcel 「小包」
 - so ~ that … 「非常に~なので…」
- (8) 「図書館は、本を貸すのに加えて、他のさまざまなサービスを提供してくれる。」
 - besides 「~の他にも」
 - cf. beside (～のそばの)
 - add to ~ は「~を増す」の意。「~に加えて」の場合、to add to ~ の形で用いる。
- (9) 「一生懸命勉強すれば、あなたはいい成績がとれるはずです。」
 - provided (that 節) 「もし…とすれば」
- (10) 「一瞬の躊躇ちゅうちよによりパイロットは命を落とすかもしれない。」
 - hesitation 「躊躇」
 - cost A B 「A に B (=犠牲, 損失) を支払わせる」

○ deprive は deprive A of B (A から B を奪う) の形で用いる。

【配点】 10 点 (各 1 点)

【5】

解答・解説

- (1) Far away across the Pacific Ocean lies the American Continent [the Continent of America].

The American Continent lies far away across the Pacific Ocean. の far away across the Pacific Ocean を強調のため文頭に出した形。

- (2) What you have once seen you must not forget.

You must not forget what you have once seen. の目的語である what you have once seen を強調のため文頭に出した形。

- (3) Tom said that he would come, and he did come.

動詞を強調する場合には強意の助動詞 do を用いる。

- (4) His lecture was simplicity itself.

～ *oneself* で「まったく～だ」という強調を表す場合がある。

Ex. He is kindness *itself*. (彼は、まったくもって親切です。)

- (5) His father seems to have had no ambition whatever.

「野心がなかった」というのは過去のことなので to have had と完了不定詞にする。

○ no ~ whatever 「まったく～ない」

【配点】 15 点 (各 3 点)

【配点の目安】

問題指示に沿っていないもの・文構造の誤り 各 - 3 点

単語のつづりの誤り 各 - 1 点

文法・語法の誤り 各 - 1 点



会員番号	
------	--

氏名	
----	--